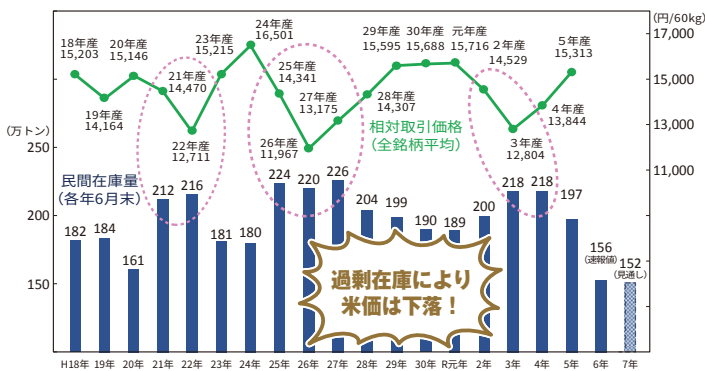


未来の水田農業のために

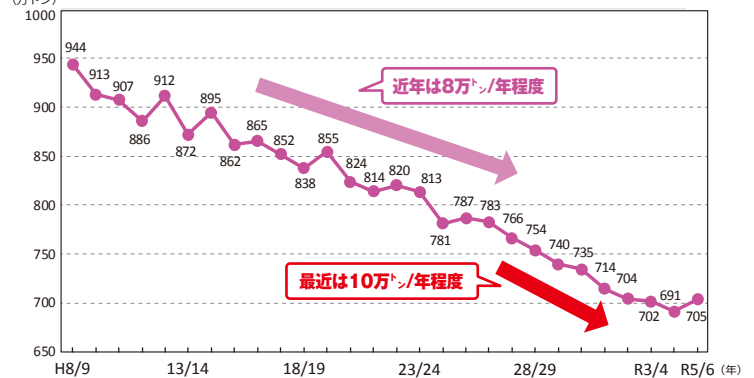
引き続き需要に見合った適正生産を

- 今年度は主食用米の需要量が増加しましたが、長期的に見れば、国内で消費されるお米は、人口減少や食生活の多様化に伴って、毎年10万トンずつ減少しています。
- 生産資材等の高騰が続く中、生産コストに見合った米価を維持するためには、引き続き需要に見合った適正生産に取り組むことが必要です。

【米の相対取引価格と在庫量の推移】



【主食用米の需要量の推移】



米価安定のため、生産者一人一人が「需要に応じた米生産」に取り組むことが大切です

主食用米の生産量は生産数量目安値や販売先の求める数量に応じて検討

米価下落に備え、作付品目の複合化で安定した農業経営

将来に向け、需要の見込める品目の導入、拡大を検討

不測の事態に備え、ナラシ対策、収入保険等のセーフティネットを活用

需要に応じた水田の活用を検討してください!

【水稲以外の他作物による転作】

麦・大豆

水稲との輪作体系を維持する方

- 国産需要の高まりから、今後も需要が見込めるため、増産を検討しましょう。
- 標準的な収量を達成し、高品質生産を行えばゲタ対策を含め、主食用米以上の**所得確保**が可能です。
- 水稲との輪作で、連作障害を回避できます。
- 自給率向上、食料安全保障の観点から、**技術導入・機械導入への支援**もあります。

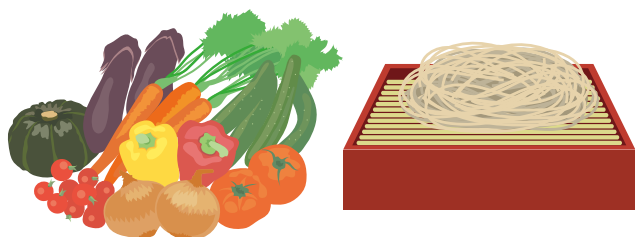
麦類は
基本的防除の
徹底を!



高収益作物(野菜等)・そば

集約的な作業が可能な方

- 転換作物が定着化している水田は、畦畔の除去や大規模な排水対策等により、**畑地化**することを検討しましょう。畑地化する場合、国の畑地化促進事業を受けることができます。



令和4年以降、5年間に一度も水張り(注1)が行われない農地は、水田活用の直接支払交付金の対象水田から外されます。畑地化に取り組む場合は、国の支援を受けられる可能性がありますので、地域協議会等にご相談ください。

(注1)水稲作付けが基本だが、条件により1か月以上の湛水管理でも可

【水稲を作りながら転作する方法】

まずは他の品目(麦・大豆・高収益作物・そば)への転換を検討しましょう。

輸出用米

新たな需要に対応した 米の生産を目指す方

- 長野県産の高品質なコメは、海外で高く評価されており、拡大が求められています。



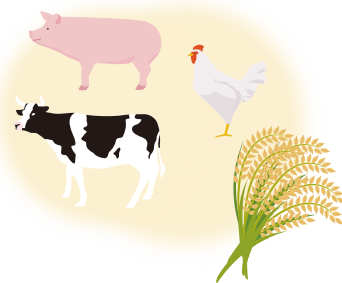
加工用米

- コロナ禍の影響で需要が減少していましたが、需要が回復してきています。



飼料用米・WCS

- 畜産飼料も高騰しており、需要が高まっています。



(注) 各品目へ新しく取り組む場合は、事前にお近くの農業農村支援センター、JAに御相談ください。

※各種支援内容については、国・県において検討中です(令和6年12月現在)。

詳しくは、最寄りの地域農業再生協議会(市町村、JA)へお問い合わせください

長野県農業再生協議会

長野県、JA長野中央会、JA全農長野、食糧集荷協同組合、市長会、町村会、農業会議、農業開発公社、NOSAI長野、長野県原種センター、信州水田農業経営者会議、長野県農業経営者協会、長野県農業士協会